

発明の名称: 平滑筋収縮抑制剤

利用・用途・応用分野

スフィンゴシルホスホリルコリン (SPC) 等による血管収縮物質による、平滑筋のカルシウム非依存性異常収縮の抑制剤、循環器系疾患治療剤、予防剤。
Rhoキナーゼシグナル伝達系阻害剤。

目的・課題

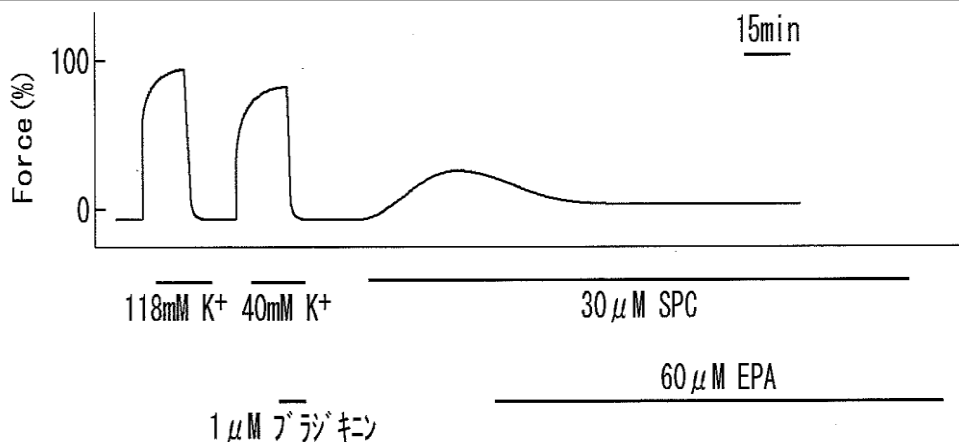
安定して供給でき、カルシウムイオン依存性の正常な平滑筋収縮に影響を与えない、カルシウムイオン非依存性の収縮のみに作用する抑制剤の提供を目的とする。さらに、循環器系疾患治療剤および予防剤、Rhoキナーゼシグナル伝達系阻害剤を提供する。

解決ポイント

ドコサペンタエン酸が課題を解決することを見出した。ドコサペンタエン酸、その塩、およびそのエステルからなる群より選択される少なくとも1種を含有することを特徴とする、平滑筋収縮抑制剤、循環器系疾患治療剤及び予防剤、またはRhoキナーゼシグナル伝達系阻害剤を用いる。

研究概要・アピールポイント

冠状動脈攣縮、肺血管攣縮、腸管膜血管攣縮、および手指血管攣縮などの循環器系疾患の治療剤、予防剤として有用である。特に、ドコサペンタエン酸は、血液脳関門を通過できるため、脳血管攣縮のような、脳血管病の治療剤、予防剤として有用である。



◆ お問い合わせ先 ◆

有限会社山口ティール・エル・オー TEL: 0836-22-9768 E-mail: tlojim@yamaguchi-u.ac.jp